

2023 年度春季大会優秀講演発表賞受賞者

2023 年度春季大会は、2023 年 6 月 6 日(火)～8 日(木)の 3 日間、早稲田大学国際会議場で開催しました。学生会員の講演発表のうち、下記の 12 名の学生会員に優秀講演発表賞を授与することが決定致しました。

金 村 稜 (東北大学)

「凍結乾燥パルス圧力印加オリフィス噴射法とプラズマ球状化処理を用い MoSiBTiC 合金の組成最適化への試み」

河 北 美 幸 (名古屋大学)

「負熱膨張材料 $\text{Cu}_{1.8}\text{Zn}_{0.2}\text{V}_{2-x}\text{P}_x\text{O}_7$ によるアルミニウムの熱膨張制御」

キム ハンスル (東京工業大学)

「 $\text{Li}_{10.35}\text{Ge}_{1.35}\text{P}_{1.65}\text{S}_{12}$ 固体電解質粒度制御による Li-In 対極の可逆性向上」

重 田 雄 二 (九州大学)

「パーシステントホモロジーによる Ti-AM 材の延性き裂発生に関わる 3D 欠陥配置の特定」

中 井 慎 司 (京都大学)

「W 型フェライト固溶体の平衡酸素分圧に関する熱力学的考察」

中 谷 剛 人 (京都大学)

「 YbMn_6Ge_6 における単結晶育成とその物性」

南 部 洸 太 (九州大学)

「強電場下における立方晶ジルコニア多結晶体の拡散挙動」

舟 橋 由 晃 (名古屋工業大学)

「粒子配合が及ぼすゲルキャスト成形体の還元焼結における黒鉛化挙動と電気特性への影響」

眞 鍋 公 輔 (早稲田大学)

「スーパーキャパシタ電極への応用を目指した還元型酸化グラフェンと規則性メソポーラスカーボンによるナノハイブリッド」

湊 晴 貴 (岡山大学)

「セリア基電解質のミリ波照射による還元強化と SOFC への応用」

若 松 岳 (京都大学)

「テラヘルツ時間領域分光法を用いた $\alpha\text{-Ga}_2\text{O}_3$ の電気物性評価」

Mingqi DONG (東北大学)

「Microstructure and mechanical properties of carbon-added titanium by laser powder bed fusion」

(総評)

今春季大会での優秀講演発表賞の講演は 58 件でした。

2022 年度秋季大会に続いて対面開催となりました。話し方やスライド作成に工夫が凝らされており、より聴講者に伝わるような発表がなされていました。

秋には国際会議、秋季大会を続けて開催します。日頃の研究の成果のご発表をお待ちしています。

(一社) 粉体粉末冶金協会 会長 園田修三